

事例番号:270169

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 2 日 全前置胎盤による帝王切開予定のため入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 3 日

15:24 帝王切開にて児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 3 日

(2) 出生時体重:2600g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH 7.28、BE -9.3mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等

生後 7 日 退院

生後 8 ヶ月 他医療機関受診

(7) 頭部画像所見

生後 8 ヶ月 頭部 MRI で、左中大脳動脈の支配領域に一致する多嚢胞性脳軟化症(孔脳症)の障害部位はグリアの反応性が乏しく、胎児期に生じた左 MCA(中大脳動脈)領域のイベントに起因すると推測

される

6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名、小児科医 1 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、子宮内で生じた左中大脳動脈領域の梗塞による梗塞性・虚血性の中樞神経障害であると考えられる。

(2) 胎児左中大脳動脈領域の梗塞の原因は不明である。

(3) 胎児左中大脳動脈領域の梗塞の発症時期は特定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 全前置胎盤に対して妊娠 37 週で帝王切開を行ったことは一般的である。

(2) 臍帯動脈血液ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

新生児期の管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期および新生児期に脳梗塞を発症した症例を集積し、その原因、病態

の解明および対応策の検討が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。